

「ひのみどり」等の高品質化のための
いぐさ栽培・畳表加工基準

平成16年3月

熊本県

第③-Ⅲ-4表 施肥基準 (早刈栽培砂質田)

(単位: kg/10a)

成分名	総量	基肥	追肥				
			4月20日	5月1日	5月10日	5月20日	6月1日
窒素	46	5	3	8	12	12	6
磷酸	12	12	-	-	-	-	-
加里	41	6	3	8	12	12	-

第③-Ⅲ-5表 標準生育の目安 (普通刈栽培)

	2月1日	3月1日	4月1日	5月1日	6月1日	7月15日
岡山3号						
最長茎長(cm)	33	36	43	62	110	150
1株茎数(本)	12 (地上15cm)	19	45	88	136	137 (地上60cm)
ひのみどり						
最長茎長(cm)	30	32	45	65	95	150
1株茎数(本)	12 (地上15cm)	22	65	120	180	160 (地上75cm)

第③-Ⅲ-6表 施肥後湛水期間延長の効果
排水中のNH₄-N量

	排水量(m ³)		NH ₄ -N量(kg)		施肥窒素量(kg)		排水中窒素/施肥窒素(%)		
	1回	2回	1回	2回	1回	2回	1回	2回	平均
湛水期間延長区 (5日)	7.2	7.9	0.83	1.06	7.35	8.45	11.3	12.5	11.9
慣行区 (3日)	18.5	14.8	1.09	0.83	7.35	8.45	14.8	10.4	12.6
湛水期間延長区 3日後落水	17.2	14.7	2.58	2.23	7.35	8.45	35.1	26.4	30.8

排水中のPO₄-P量

	排水量(m ³)		PO ₄ -P量(g)		施肥磷酸量(g)		排水中磷酸/施肥磷酸(%)		
	1回	2回	1回	2回	1回	2回	1回	2回	平均
湛水期間延長区 (5日)	7.2	7.9	50.4	130.3	1,166	1,318	4.3	9.9	7.1
慣行区 (3日)	18.5	14.8	220.2	183.5	1,166	1,318	18.7	13.9	16.3
湛水期間延長区 3日後落水	17.2	14.7	314.8	311.4	1,166	1,318	27.0	23.6	25.3

注) 施肥は灌漑施用、1994年、い業研究所、試験規模: 各5a。

1 窒素

基肥の窒素は植付後から4月までの生育初期における分けつに必要で、基肥並びに4月までの肥効が強いと早できになり、変色茎の増加、長茎収量の減少などの品質低下につながる。

長茎多収、高品質ないぐさを得るためには、早刈栽培より普通刈栽培がよく、5月中旬～下旬に重点的に施肥する。同量でも回数を多く施用する方が、吸収利用効率が高い。保肥力の低いいぐさ田では、肥料の流亡と濃度障害を抑えるために、少量に分けて追肥し、施用回数を多くする。

最近開発された溶出日数の長い被覆尿素を利用した施肥体系では、基肥に被覆尿素を施用することで総窒素施用量を20%削減でき、追肥の省力と環境負荷を軽減できる施肥体系である。

2 磷酸

磷酸は、いぐさの生育初期において根の発育を促す。生育後期には磷酸の吸収は少なく、基肥だけの施用でよい。

3 加里

加里は、茎や根の伸長を促す。また、色沢を良好にし、茎を充実させ、先枯れを少なくする効果もある。いぐさの伸長期（生育中後期）に多く施肥する。

第③-Ⅲ-7表 被覆尿素基肥施用体系の内容 (単位:kg/10a)

施肥体系	基肥 (N-P-K)		追肥 (N-K)				総施用量 (N-P-K)
	速効性	被覆尿素	①	②	③	④	
現行施肥体系	6-13-6	—	5-11	13-11	15-12	6-0	45-13-40
被覆尿素基肥 施用体系	〃	22-0-0 ¹⁾	0-34 ²⁾	8-0	—	—	36-13-40

注) 1)の被覆尿素はシグモイド型の溶出日数60日7kg、100日15kgを施用。
追肥は硫安と塩加を施用。ただし、2)は40日リニア型被覆塩加を施用。
場所：い業研究所。作期：12月上旬植付け7月上旬収穫。